

ポライトネスの観点から見た 感謝場面における日タイ語の言語行動

—表現の使い分けの異同の考察—

Salirat KAWEEJARUMONGKOL

要 旨

本稿ではテレビドラマを資料とし、ポライトネス理論で上下関係及び相手にとっての負担度による感謝場面での日タイ語の表現の使い分けを考察した。その結果、両言語とも負担度が高く相手が親しい同等の場合、ポジティブ・ポライトネスの属性を持つ表現（PP 表現）が多い。しかし、負担度が高く相手が親しい目上の場合になると、日本語ではネガティブ・ポライトネスの属性を持つ表現（NP 表現）が増加し、PP 表現が減少する。一方、タイ語では NP 表現が好まれず、典型的な PP 表現のみが減少するという傾向にある。つまり、感謝場面で日本語では NP にも PP にも配慮する一方、タイ語では PP のみに配慮することが明らかになった。

【キーワード：ポライトネス／感謝場面／日タイ語／言語行動／表現の使い分け】

1. はじめに

感謝は日常会話において頻繁に行われており、人間関係を円滑にする役割を果たしている（Coulmas, 1981；Eisenstein&Bodman, 1986（以降、「E&B」と略す）。E&B（1986）は、アメリカでは感謝は社会的に重要な行為であり、大人は時間をかけ、幼い子どもに感謝を適切に表現することを教えると述べている。感謝を遂行すると、人間関係を円滑にするが、それに失敗すれば、話し手と聞き手の人間関係を悪化させる可能性がある。Brown&Levinson（1987）（以降、「B&L」と略す）のポライトネス理論によると、人間は誰でも「他者に好まれたい／受け入れられたい」というポジティブ・フェイス（以降、「PF」と略す）及び「他者に自分の領域に侵入されたくない／他者に邪魔されたくない」というネガティブ・フェイス（以降、「NF」と略す）を持っている。言語行動を行う際、その行為は相手や自分のフェイスを脅かす行為（FaceThreateningAct=FTA）になる可能性があり、相手との上下・親疎関係及び事柄の負荷度の要因により、その FTA の深刻度が変わると述べられている。B&L（1987）によると感謝は相手の負い目を承認することを表し、話者の NF を脅かす行為である。また、そのフェイスを脅かす深刻度を緩和するために、ポライトネス・ストラテジーが必要であると指摘されている。その中で言語行動に頻繁に見られるのはポジティブ・ポライトネス（以降、「PP」と略す）とネガティブ・ポライトネス（以降、「NP」と略す）である。

しかし、清水（2009：153）によれば、感謝は聞き手の PF を保持すると同時に、話し手の NF を脅かす行為にもなる。この点を踏まえると、一つの行為の中で、必ずしも PP か NP か一つのポラ

イトネスが実現されるわけではないと考えられる。また、同様の言語行動であっても、異なる社会文化では同様のポライトネスに配慮するとは限らない。一例として、日本語とタイ語について考えると、感謝場面において日本語では目上の相手に対して「すみません」のような謝罪表現を感謝表現として用いる場合がある。一方、タイ語では、例えば、相手に依頼したことを遂行してもらった時、感謝の気持ちを込めて「*nâa-rákcaŋ*」(lit. すごくかわいい)のような相手をほめる表現を用いることがある。このように、同様の感謝の言語行動であっても、両言語で用いられる表現や出現状況が異なっているということはそれぞれの言語でどのポライトネスに配慮するかを反映したものである。すなわち、一つの言語行動の中でそれぞれの言語で配慮するポライトネスが異なると、好まれる表現や出現状況も異なる。この相違点は異文化間コミュニケーション上の問題を引き起こす可能性がある。従って、それを解決するために、感謝場面におけるお互いの言語で好まれる表現の使い分けを探ることによって両言語で配慮されるポライトネスに関する理解を深めることが重要である。本稿では、感謝場面における日タイ語の表現の使い分けを考察し、ポライトネスの観点から両言語の表現を特徴づける。

2. 先行研究及び問題点

これまで感謝に関する研究は多数あり、表現の使い分けや特徴について明らかにしたものが多く(Coulmas, 1981; 佐久間, 1983; 熊取谷, 1990; 赤堀, 1995; Ohashi, 2008等)。Coulmas (1981)と熊取谷(1990)では、感謝場面における日本語の表現の特徴は「すみません」のような謝罪表現の使用だと述べられている。この現象は「話し手にとっての有益状況」を「聞き手にとっての不快状況」として捉え、丁寧行動の方策の一つだと指摘されている(熊取谷1990:37)。Ohashi (2008)では、詫び表現の使用以外、「～ていただく」のような授受補助動詞の使用も感謝場面における日本語の表現の特徴の一つだと指摘されている。また、日本語と英語の対照研究により日本語の特徴を明らかにしたのは三宅(1994)である。三宅(1994)では、日本語と英語の特徴に関し、日本語では話し手の利益に注目した表現が好まれているのに対し、英語では聞き手の好意に注目した表現が好まれるとされる。

さらに、感謝場面における日本語とタイ語の言語行動の特徴に関する研究としてはサンタヨーパス(2011)とカウィーチャールモンコン(2014)が挙げられる。日タイ語における謝罪表現と感謝表現の使い分けを考察したサンタヨーパス(2011)によると、感謝場面において日本語では「ありがとう」等の感謝表現の他に謝罪表現も用いられるのに対し、タイ語では感謝表現のみ用いられる。その上、日本語とタイ語の対照研究であるカウィーチャールモンコン(2014)では、感謝場面において日本語では「～てくれる」や「～てもらう」のような授受補助動詞は頻繁に用いられるが、タイ語ではそれほど用いられないと述べられている。さらに、カウィーチャールモンコン(2014)においても感謝場面におけるタイ語の表現の特徴の一つとして「相手へのプラス評価」の使用が報告されている。しかし、これらの研究では両言語の表現の特徴は明らかにされたが、それぞれの言語で特徴を生み出す背景的な要因が何かはまだ明らかにされていない。

ポライトネスの観点からみると、ポライトネス理論を用い、日本語における言語行動を考察した研究は少なくないが、見解は一致していない。日本語ではNPが好まれる言語文化であるとB&L(1987)をはじめ、様々な研究で述べられている。一方、フェイスワークの観点から考察した研究であるMatsumoto(1988)や熊谷(2013)では表現の使用実態からみると、日本語はNP文化ではなく、むしろPP文化なのではないかと主張されている。それに加え、台日における電子メールと初対面場面における依頼行動を比較した李(2004)によると、対面場面でNPストラテジーを好む日本人は、電子メールで依頼する際、台湾人と同じように、PPストラテジーを好む傾向にある。

さらに、依頼、謝罪、勧誘等、ポライトネス理論のフェイスワークの観点から考察した日タイ語の言語行動の対照研究も存在する(ウィッターヤンパンヤーン、2004、2006; Jongkolsiri、2003; Dechvijankit、2004等)。しかし、日タイ語ではどのポライトネスに配慮するか、フェイスを補償するためにどのポライトネスを用いるかは明確に言及されず、そのFTAは聞き手のフェイスの侵害になるか、或いは話し手のフェイスの侵害になるかという点のみ注目し考察したものがほとんどである。

以上の研究からみると、感謝に関する研究は多数あるが、ポライトネスの観点から考察したものは少ない。さらに、これまで日本語やタイ語の表現の特徴は明らかにされたが、ポライトネスを用い、それを生み出す背景的な要因はまだ不明である。従って、それぞれの言語でどのポライトネスが好まれるかは様々な言語行動における言語の使用実態から考察する必要がある。また、NP文化だと言われている日本語とPP文化だと考えられるタイ語を比較することによって両言語の表現の特徴を明らかにし、感謝場面における異文化間コミュニケーション上の問題を減らすことが可能であろう。そこで、本稿ではポライトネス理論の枠組みで感謝場面における日本語とタイ語の言語行動、主に上下関係及び相手にとっての負担度による表現の使い分けを考察し、両言語の表現を特徴づけることを目的とする。

3. 研究方法

本稿では様々な場面に現れた表現を考察するため、「申し出」「贈り物」「料理を作ってくれた」等の感謝を生み出す場面に現れた表現を収集した。本稿では様々な感謝場面における表現を考察するにあたって、テレビドラマを用い、テレビドラマでの実際の発話を文字化した資料を用いた。テレビドラマには会話のやりとりがあり、日常生活の会話に近いという利点があるが、作者の個性が出るという批判もある。その欠点を補うため、脚本を作成した人の異なるものを選択した。また、両国にある恋愛ドラマを抽出し、現代的な内容かつ日常生活における事柄に関する内容があるものとした。さらに、それぞれの国で人気のあるもので、両国の2000年代の流行ランキングを参考にし、視聴率の高いものを取り上げた¹。

各言語のドラマから収集した場面はそれぞれ282件ずつである。両言語の表現の使い分けを比較するために、全場面から、場面の内容、上下・親疎関係、相手にとっての負担の度合いがほぼ同様のものを抽出し分析した。しかし、ドラマから得たデータには疎遠な関係の人物及び感謝の聞き手

が目下の人として設定された場面が非常に少ないため、親しい関係の場面及び感謝の聞き手が目上の人と同等の人の場合のみ取り上げ、分析を行った。以上の条件を満たし、抽出した場面は、日本語とタイ語、それぞれ60件である。上下関係で分けると、相手が親しい目上（以降、「親目上」²⁾ 30件と親しい同等（以降、「親同等」）30件である。相手にとっての負担の度合いによって分けると、負担度の高い場面（以降、「負担度高」³⁾ 30件と負担度の低い場面（以降、「負担度低」）30件である。

4. 感謝場面における日本語とタイ語の表現の分類

本稿では、意味公式の単位を用い分析を行った。また、意味公式は「相手から何らかの利益を受けた際、発話されたときに発話した表現を、その意味機能によって分類した単位」と定義する。例えば、プレゼントをもらった時、「ありがとう。これ、かわいい。」と発話された場合、この言語行動は「感謝の気持ちの表出」（前者）と「ものに対する言及」（後者）の2つの意味公式からなる表現だと分析する。

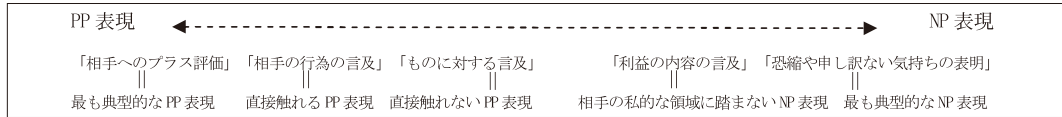
意味公式の分類を行う上で、英語の感謝に関する研究である E&B (1986) と日本語の感謝に関する研究である赤堀 (1995)⁴⁾ による表現の分類を参考にし、分析対象とした日本語とタイ語の60場面から日タイ語の意味公式の分類を試みた。分類したものは表1のとおりである。表1の意味公式を用い、ポライトネス理論を用い、感謝場面における両言語の表現の種類の使い分けを検討し、両言語の表現を特徴づけた。

表1 日本語とタイ語の意味公式の分類

意味公式の種類	
1. 心的態度の表明	1.1 感謝の気持ちの表明
	1.2 感謝の必要性の表明
	1.3 喜び・感激の気持ちの表明
	1.4 好き・愛情の表明
	1.5 恐縮や申し訳ない気持ちの表明
2. 相手や話し手に関する言及	2.1 相手の名前や対称や愛情を表す名称で呼ぶ
	2.2 相手へのプラス評価
	2.3 相手の行為の言及
	2.4 相手の行為の必要性
	2.5 話し手の利益のために、相手に迷惑をかけることに関する言及
3.ものに関する言及	3.1 ものに対する言及
	3.2 物事に関する言及
4.利益に関する言及	4.1 利益を受けたことへの言及
	4.2 利益の内容の言及
5.恩恵に関する言及	5.1 恩返しと言及
6.その他	6.1 依頼
	6.2 理由を述べる
	6.3 行動をさせてもらう

5. 結果及び考察

本稿では感謝場面に出現した表現を意味公式によって分類した。本稿では B&L (1987) のポライトネス理論におけるポライトネス・ストラテジーの PP と NP の概念を利用し、次のように表現を大別する。表1に示した表現を、PP の属性を持つ表現（以降、「PP 表現」と称する）と NP の属性を持つ表現（以降、「NP 表現」と称する）に分ける。PP 表現を、「相手との距離を縮めようとする／相手や相手のことに直接触れようとする表現」と定義する。また、この表現の中で程度性により「相手の行為の言及」等のような相手や相手のことについて直接触れようとする表現（以降、「直接触れる PP 表現」と略する）及び「ものに対する言及」等のような相手や相手のことに直接触れないようにする表現（以降、「直接触れない PP 表現」と略する）に分ける。一方、NP 表現を「相手の私的な領域に踏み込むことを回避する／相手との距離を置くことを表す表現」と定義する。表現の程度は以下の通りにまとめられる。



以上の表現の分類に従って両言語の上下関係及び相手にとっての負担度による表現の使い分けを考察していく。

5.1 日本語とタイ語の表現の使い分け

テレビドラマの資料から収集し、上下関係及び相手にとっての負担度による表現の使い分けの出現数と割合を表2に示す。

表2 上下関係及び相手にとっての負担度による日タイ語の表現の出現数と割合

意味公式の種類	タイ語					日本語					
	高 目上	高 同等	低 目上	低 同等	合計	高 目上	高 同等	低 目上	低 同等	合計	
1. 心的態度の表明	1.1 感謝の気持ちの表明	15 44.12%	11 28.40%	14 87.50%	14 87.50%	54 47.79%	13 54.17%	10 27.78%	13 81.25%	15 68.18%	51 52.04%
	1.2 感謝の必要性の表明	1 2.95%	2 4.25%	0 0%	0 0%	3 2.65%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	1.3 喜び・感激の気持ちの表明	1 2.95%	4 8.51%	0 0%	1 6.25%	6 5.31%	0 0%	2 5.56%	2 12.50%	0 0%	4 4.06%
	1.4 好き・愛情の表明	1 2.95%	2 4.25%	0 0%	0 0%	3 2.65%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	1.5 恐縮や申し訳ない気持ちの表明	1 2.95%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.88%	4 16.67%	1 2.78%	1 6.25%	1 4.55%	7 7.14%
	2.1 相手の名前や対称や愛情を表す名前で呼ぶ	1 2.95%	2 4.25%	0 0%	0 0%	3 2.65%	1 4.17%	0 0%	0 0%	1 4.55%	2 2.04%
2. 相手や相手に関する言及	2.2 相手へのプラス評価	1 2.95%	10 21.27%	1 6.25%	1 6.25%	13 11.50%	0 0%	2 5.56%	0 0%	0 0%	2 2.04%
	2.3 相手の行為の言及	8 23.53%	9 19.15%	1 6.25%	0 0%	18 15.93%	3 12.50%	4 11.11%	0 0%	1 4.55%	8 8.16%
	2.4 相手の行為の不必要性	1 2.95%	1 2.13%	0 0%	0 0%	2 1.77%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
	2.5 相手の利益のために相手の迷惑をかけることに関する言及	1 2.95%	0 0%	0 0%	0 0%	1 0.88%	1 4.17%	1 2.78%	0 0%	1 4.55%	3 3.06%
	3.1 ものに関する言及	3 8.82%	2 4.25%	0 0%	0 0%	5 4.42%	0 0%	6 16.67%	0 0%	0 0%	6 6.12%
3.2 物漏れに関する言及	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 5.56%	0 0%	1 4.55%	3 3.06%	
	4.1 利益を受けたことへの言及	0 0%	1 2.13%	0 0%	0 0%	1 0.88%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	
4. 利益に関する言及	4.2 利益の内容の言及	0 0%	2 4.25%	0 0%	0 0%	2 1.77%	1 4.17%	5 13.89%	0 0%	0 0%	6 6.12%
	5. 恩恵に関する言及	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.17%	0 0%	0 0%	0 0%	1 1.02%
6. その他	6.1 依頼	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.55%	1 1.02%
	6.2 理由を述べる	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3 8.33%	0 0%	0 0%	3 3.06%
	6.3 行動をさせてもらう	0 0%	1 2.13%	0 0%	0 0%	1 0.88%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.55%	1 1.02%
合計	34 100%	47 100%	16 100%	16 100%	113 100%	24 100%	36 100%	16 100%	22 100%	98 100%	

表2は上下関係及び相手にとっての負担度による日本語とタイ語の表現の出現数と割合を示したものである。割合を全体的に見ると、両言語を通じて「負担度低」では上下関係による使い分けが見られず、「ありがとう」や「*khòp-khun* (lit. ありがとう)」の「感謝の気持ちの表明」に偏る。一方、負担度が相対的に大きくなると、両言語を通じて使用表現が増加し、特に「負担度高」で「親同等」の場合、「相手へのプラス評価」「相手の行為の言及」「ものに対する言及」等のPP表現の使用が多くなる。特に、「負担度高」で「親同等」及び「負担度高」で「親目上」の場合に両言語の共通点及び相違点が明確に見られる。5.1.1と5.1.2では「負担度高」で「親同等」と「負担度高」で「親目上」の場面における両言語の好まれる表現に関し述べていく。

5.1.1 「負担度高」で「親同等」の場合

「負担度高」で「親同等」の場合、両言語ともPP表現の使用が多くなることが共通しているが、それぞれの言語に好まれるPP表現の程度が異なる。タイ語では、相手が「親同等」の場合、相手が「親目上」或いは「負担度低」の場合より更に相手との距離を縮めようとするPPが選択される。「負担度高」において、基本的にPFに配慮するタイ語では相手のPFを侵害する危険性も高くなり、「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」のような「直接接触れるPP表現」を用いることにより、相手のPFを補償する。特に典型的なPP表現である「相手へのプラス評価」は「負担度高」で「親目上」の場合より多く、21.27%である。一方、日本語では「親同等」の相手のPFを傷つけないようPP表現が用いられ、「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」の使用も見られるが、タイ語ほど多くはない。以下の例①と②は料理を作ってくれた場面であり、日タイ語とも同等の相手のPFを満たすために、両方の表現が用いられている。

① タイ語 <場面：恋人であるウィーはファーのために、朝食を作ってオフィスまで持ってきてくれた。(負担度高—親同等)>

Fáa: ⁽¹⁾ *Khòp-khun khà?* ⁽²⁾ *Tham ?aa-hǎan cháw hǎw dǔav ?à?* ⁽³⁾ *Nǎa-rák ?à?*

(lit.ファー：⁽¹⁾ありがとう。⁽²⁾朝ごはん作ったの。⁽³⁾素敵。)

(SS)

(1) 「感謝の気持ちの表明」 (2) 「相手の行為の言及」 (3) 「相手へのプラス評価」

② 日本語 <場面：親友である美樹が朝食を作ってくれた。(負担度高—親同等)>

桜：⁽¹⁾ いつの間に、作ったの？ ⁽²⁾ やっぱり毎朝作ってるお母ちゃんは違うなあ。 (LC)

(1) 「相手の行為の言及」 (2) 「相手へのプラス評価」

表2から分かるように、日本語では「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」等の「直接接触れるPP表現」の使用が見られるが、比較的少ない。日本語で用いられるのは、例④に示すような「ものに対する言及」の「直接接触れないPP表現」である。

③ タイ語 <場面：妻のテーは主人であるピットのため、服をたくさん買ってきた。

(負担度高一親同等) >

Tee: (服がいっぱい入っている袋をあげた)

Pit: (袋を開けてみてから) ⁽¹⁾Khòp-khun khráp. (lit. ピット: ⁽¹⁾ありがとう。)

Tee: ?əə... Chán.chán kà? kà? sáy khòŋ naay ?aw ?à?. Mây-rúu waa nay cà? sáy dáy rú-plàaw ná?. Ləŋ duu ná?. (lit. テー:あのう...私...私、あなたのサイズを予測していたよ。着られるかどうか分からないよ。試してみてね。)

Pit: ⁽²⁾Khòp-khun khráp. (服を試してから) ⁽³⁾Sày dáy phə-dii túk-vəŋ ləy khráp. ⁽⁴⁾Khun lúak dáy kèn máak ná? nū. ⁽⁵⁾Tee-waa tii-ləŋ mây-tŋ sūuu wá? ka?-nàat nū kòŋ-dây ná?

(lit. ピット: ⁽²⁾ありがとう。 ⁽³⁾全部びったり着られるよ。 ⁽⁴⁾君は選ぶのが上手だなあ。

⁽⁵⁾でも、今度からはこんなにいっぱい買ってこなくていいよ。) (RP)

(1) 「感謝の気持ちの表明」 (2) 「感謝の気持ちの表明」 (3) 「利益の内容の言及」

(4) 「相手へのプラス評価」 (5) 「相手の行為の不要性」

④ 日本語 <場面：美樹と公平は何年も前に結婚したが、美樹は結婚指輪をまだもらっていない。主人である公平からずっとほしかった結婚指輪をもらった。

(負担度高一親同等) >

美樹: (結婚指輪を受け取った) ⁽¹⁾すごい綺麗。

公平: ほら。

美樹: ⁽²⁾ありがとう。 (LC)

(1) 「ものに対する言及」 (2) 「感謝の気持ちの表明」

例③と④は同じようなプレゼントをもらった場面だが、相手が「親同等」の場合、タイ語では「相手へのプラス評価」が用いられるのに対し、日本語では「ものに対する言及」が用いられている。

⑤ 日本語 <場面：千春が友人の子供のために料理を作ろうとしたが、自分が作ったら、その子と一緒に遊ぶ人がいなくなるので、なかなかできなかった。その時、ちょうど親しい友人である純平が千春の家に来た。純平がその子と遊んでいる間に、千春は晩御飯が作れた。

(負担度高一親同等) >

千春: ... ⁽¹⁾来てもらって ⁽²⁾ホント助かりました。 ⁽³⁾やっぱり電車の種類とか男同士、話が合うね。 (KS)

(1) 「相手の行為の言及」 (2) 「利益の内容の言及」 (3) 「理由を述べる」

また、例⑤に示したように、日本語では「ものに対する言及」の他に、「理由を述べる」の「直接触れない PP 表現」も用いられる。「負担度高」で「親同等」の場合、日本語ではこの表現は8.33%現れたが、タイ語では現れなかった。つまり、日本語ではタイ語より「直接触れない PP 表現」が好まれると考えられる。これに関して Dechvijankit (2004) の日本語とタイ語の依頼ストラテジー

の対照研究の結果が挙げられる。Dechvijankit (2004) は、依頼行動を行う際、日本語の方がタイ語より「理由説明」を多用することを明らかにした。本稿の感謝の言語行動においても、日本語はタイ語より「理由を述べる」の使用が多いことから考えると、日本語では感謝場面でも依頼場面でも理由に言及することが好まれるといえよう。また、感謝場面においてタイ語では「理由を述べる」が用いられないのは、相手の PF を満たすためにその表現より「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」の PP 表現の方が適切だからであろう。

PP 表現のみならず、「負担度高」で「親同等」の場合、日本語ではタイ語と異なり、「利益の内容の言及」のような NP 表現も好まれる。表 2 から分かるように、日タイ語とも「負担度高」で「親同等」の場合に用いられる傾向にあるが、日本語の方が好まれている。基本的に相手の NF に配慮する日本語では、親しい同等の相手であっても、相手との距離を縮めようとすることを表す PP 表現より相手との距離を遠く置くことを表す NP 表現の方が用いられる。

⑥ タイ語 <場面：友人であるディンにタイヤを変えるよう頼んだ。ディンが頼んだとおりにタイヤを変えた。(負担度高—親同等)>

Fáa: (ファーが汚れた顔をハンカチでふいてくれた) Ríep-roy lá?

(lit. ファー：できたよ。)

Dín: Yaŋ-ŋay kǎo khòp-khun mâak ná? khun.

(lit. ディン：とにかくどうもありがとうな。)

Fáa: Mây tǎŋ khòp-khun ròok.⁽¹⁾ **Chán tàan-hàak thii tǎn khòp-khun**

⁽²⁾ **thii naaychúay plien yaan háy.**

(lit. ファー：お礼を言わなくていいよ。 ⁽¹⁾ **私こそお礼を言わないといけないよ。**

⁽²⁾ **あなたがタイヤを変えるのを手伝った。** (SS)

(1) 「感謝の必要性の表明」 (2) 「相手の行為の言及」

⑦ 日本語 <場面：立花は今、友人である桜が住んでいるアパートに引っ越している。

立花は桜に引っ越すのを手伝うよう頼んだ。桜が引っ越しが終わるまで手伝った。(負担度高—親同等)>

立花：もういいや。後はゆっくりやるから。 ⁽¹⁾ **助かったわ。** (LC)

(1) 「利益の内容の言及」

例⑥と⑦から分かるように、依頼を遂行してくれた場面においてもタイ語では「親同等」の相手の PF に配慮し、「相手の行為の言及」の PP 表現が用いられるが、日本語では親しい同等でも、相手の NF に配慮し、「利益の内容の言及」である NP 表現が用いられる。この表現の使用に関して、三宅 (1994) は、日本語では「助かった」のような話し手の利益に注目した表現が好まれているという。本稿で「利益の内容の言及」として扱っている表現は、「助かった」や「これで旅行プランほとんどできたよ」のような利益を受けた側がその利益に関して言及する表現などである。日本語の使用実態からみると、三宅 (1994) で指摘されたことと一致しているといえよう。

上述の使い分けの例文からすると、表現自体の他に、表現の組み合わせと順序の点も両言語で異なる点が指摘できる。「負担度高」で「親同等」の場合、タイ語では「感謝の気持ちの表明」の後に、「相手の行為の言及」や「相手へのプラス評価」等の他の表現と組み合わせてその順番で用いることが多い。一方、日本語ではそのような組み合わせが多くなく、タイ語のように表現の順序も決まっていない。「感謝の気持ちの表明」を単独で用いることも、様々な表現を組み合わせで用いることもある。

5.1.2 「負担度高」で「親目上」の場合

上述のように、日本語とタイ語、両言語を通じて「負担度高」で「親同等」の場合、PP表現の使用が多い。しかし、「負担度高」で「親目上」の場合になると、両言語の相違点は明確になる。日本語では、PP表現の使用が減り、NP表現、特に典型的なNP表現である「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」が2番目に多くなる。「負担度高」で「親目上」の場合、日本語ではこの表現は16.67%であるが、タイ語では僅か2.95%である。つまり、この場合、日本語ではタイ語より相手のNFに配慮しNPが発動され、NP表現を使用する傾向にある。日本語では「親目上」に対して直接的に「ありがとう」の「感謝の気持ちの表明」が使用されず、利益を受けたことで自分が相手のNFを脅かしたことを認めることを表すと同時に、そのフェイスを補償するために、間接的な表現／相手との距離を置く表現として「すみません」のような「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」が用いられるのである。

⑧ タイ語 <場面：雨の日に親しい上司であるグリットがエオを家まで送ってくれた。>

(負担度高—親目上) >

๒๕๖ว : ① Khòp-khun ná? khá? ② thū maa sòn.

(lit.エオ： ① ありがとうございます。 ② 送って来た。) (ST)

(1) 「感謝の気持ちの表明」 (2) 「相手の行為の言及」

⑨ 日本語 <場面：夜遅くまで残業していたため、親しい部長である高原が千春を家まで車で送ってくれた。(負担度高—親目上) >

千春： ① すみません。 ② 送っていただいたりして。 (KS)

(1) 「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」 (2) 「相手の行為の言及」

例⑧と⑨から分かるように同様の「負担度高」で「親目上」の状況であっても、両言語の好まれる表現が異なる。タイ語では例⑧のように直接的に言及することによって相手のPFを満たす表現として「khòp-khun」の「感謝の気持ちの表明」が用いられるが、日本語では、例⑨のように「すみません」の「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」が用いられる。

⑩ タイ語 <場面：親しい先輩であるナークが依頼を遂行してくれた。（負担度高—親目上）>

Cha-ʔeem: ⁽¹⁾Chán kô tón khòp-khun phii máak ná? ⁽²⁾thii chúay. ⁽³⁾Khòp-khun ná?

(lit. チャエーム：⁽¹⁾私は先輩に深くお礼を言わないといけません。 ⁽²⁾(私を) 助けた。 ⁽³⁾ありがとうございます。) (PK)

(1) 「感謝の必要性の表明」 (2) 「相手の行為の言及」 (3) 「感謝の気持ちの表明」

⑪ 日本語 <場面：桃子が姉の真子にヨーグルトを買ってきてくれるように頼んだ。真子が依頼のとおり、買ってきた。（負担度高—親目上）>

桃子：お姉ちゃん、留守かなって焦るじゃん。あつ、⁽¹⁾ヨーグルト買ってきてくれたんだ。

⁽²⁾サンキュー。 (RY)

(1) 「相手の行為の言及」 (2) 「感謝の気持ちの表明」

また、「負担度高」で「親目上」の場合、依頼を遂行してくれた場面である例⑩と⑪のように日本語でもタイ語でも PP 表現である「相手の行為の言及」の使用が見られるが、タイ語の方が使用率が高い。タイ語では「親目上」であれ「親同等」であれ相手の PF に配慮し、それを満たすために、相手との距離を縮めようとすることを表す PP 表現が多数用いられるのである。タイ語の場合、「相手の行為の言及」だけでなく、「負担度高」で「親目上」の場合、例⑫のように「ものに対する言及」が用いられることもある。

⑫ タイ語 <場面：母がブランドのプレゼントを誕生プレゼントとしてくれた。（負担度高—親目上）>

ʔoon: ⁽¹⁾Chanêw! ⁽²⁾Khòp-khun khà? mée. ⁽³⁾Khun-mêe nâa rák. (PK)

(lit. オーン：⁽¹⁾シャネルだ! ⁽²⁾お母さん、ありがとう。 ⁽³⁾お母さんってかわいい!!)

(1) 「ものに対する言及」 (2) 「感謝の気持ちの表明」 (3) 「相手へのプラス評価」

以上の使い分けの例文からみると、「負担度高」で「親目上」の場合も「負担度高」で「親同等」の場合と同様にタイ語では、謝意を表す表現である「感謝の気持ちの表明」や「感謝の必要性の表明」を「相手の行為の言及」等の PP 表現と組み合わせて用いることが見られる。それに対し、日本語では「負担度高」で「親同等」の場合と同様にその組み合わせが見られるが、タイ語より少ない。つまり、「感謝の気持ちの表明」が「相手の行為の言及」等の PP 表現と組み合わせてその順番で用いる現象は感謝場面におけるタイ語の特徴の一つだと考えられる。

5.2 感謝場面における日本語とタイ語の好まれる表現の特徴

日本語：

日本語では先行研究で指摘されたとおり、NPが好まれるが、感謝場面においては状況によりPPが用いられる場合もあることが本稿の結果で検証される。5.1節で述べたように、「負担度高」で「親同等」の場合、PP表現を用いる傾向がある。ただし、頻繁に用いられるPP表現は典型的なPP表現である「相手へのプラス評価」ではなく、「ものに対する言及」や「理由を述べる」のような「直接触れないPP表現」である。しかし、「負担度高」でも「親目上」の場合になると、PP表現が減少し、NP表現、特に典型的なNP表現である「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」の使用が増加する。

換言すれば、感謝場面において、特に相手にとっての負担度の高い場面においてNP表現もPP表現も用いられる。ただし、上下関係により相手が親しい目上の場合になると、相手のNFを脅かす危険性が一層高くなり、それを補償するために、相手との距離を置くNP表現、特に典型的なNP表現である「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」が用いられるわけである。さらに、相手が親しい同等の場合、近接性を表すと同時に、相手のNFにも配慮するため、「直接触れないPP表現」も相手の領域に侵入しないNP表現も用いられるわけである。

また、清（2007：86）は日本人の発想に関して日本人には事柄自体（何がどうなるか）を述べるのが好まれるという。本稿で明らかにした日本語で好まれるNP表現とPP表現の性質から考えると、本稿の結果は清（2007）の主張に支持されるといえよう。つまり、日本語では相手や相手に関わることへの直接的な言及ではなく、内容自体や物事自体への言及がなされ、NP表現或いは「直接触れないPP表現」の方が好まれる。

タイ語：

タイ語でも日本語と同様の傾向が見られ、5.1節に述べたように「負担度高」で「親同等」の場面でPP表現の使用が多い。感謝場面において、タイ語では日本語と異なり、相手の「他者に邪魔されたくない」というNFより、「他者に好まれたい」というPFに配慮する。そのフェイスを満たすために、相手との距離を縮めようとする、つまり近接性を表すPP表現を用いる傾向にある。特に、「負担度高」で「親同等」の場合、更に相手との距離を縮めようとし、「相手へのプラス評価」の典型的なPP表現が多く用いられる。相手の行為を自分の利益として捉え、その恩恵に対して相手の外見、性格、実力等に対してプラス評価を与えることにより相手のPFが満たされると考えるためである。一方、「負担度高」でも「親目上」の場合、相手のPFを補償すると同時に、相手のNFにも配慮する。従って、目上の相手に対してほめたり評価したりする典型的なPP表現の「相手へのプラス評価」の使用を回避し、「相手の行為の言及」や「ものに対する言及」を用いる傾向にある。

タイ語では、感謝の言語行動に関する研究はもちろん、ポライトネスで考察するものも非常に少ない。しかし、フェイスワークの観点から日タイ語の他の言語行動を考察したものは存在する。それらは、タイ語では相手のフェイスにも自分のフェイスにも配慮するという結果が指摘された

ものがほとんどで、どのポライトネスに配慮し、どのポライトネスを用いるかは明確な記述はなく、記述されるのは使用される表現のみである。例を挙げると、ウィッタヤーパンヤーノン（2004、2006）が挙げられる。日タイ語の謝罪の言語行動に関するウィッタヤーパンヤーノン（2004：42）によると、日本語では相手のフェイスに配慮し、「謝罪表明」が用いられるが、タイ語では相手のフェイスに配慮すると同時に、自分のフェイスも保持し、「直接的発話行為」と「説明・弁明」が用いられる。さらに、日タイ語の「依頼」と「勧誘」行為のストラテジーを考察したウィッタヤーパンヤーノン（2006）では、依頼や勧誘を行う際、タイ語では「あなたのため型」の表現が好まれるのに対し、日本語では「内容自体がいい型」の表現が好まれるとされる。ウィッタヤーパンヤーノン（2004）の「説明・弁明」やウィッタヤーパンヤーノン（2006）の「あなたのため型」の表現からみると、タイ語では相手に関わることを言及することが好まれるといえよう。本稿の結果はタイ語では相手との距離を縮めようとすることを表す **PP** 表現が好まれるという点から考えると、いずれの研究も本稿のタイ語の結果を支持し、タイ語では感謝場面においても謝罪、依頼、勧誘の場面と同様に相手や相手のことに直接関わることに言及することによって相手との距離を縮めようとする、つまり **PP** が好まれるといえる。

その他：

日本語とタイ語の表現の使い分けの相違点以外にも、表現の組み合わせと順序の特徴が見られる。タイ語では特に「負担度高」の場合、相手の上下関係に関わらず、「感謝の気持ちの表明」を「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」等の他の **PP** 表現と併用する傾向にある。つまり、タイ語では最も表したい感謝の気持ちを先に述べてから他の表現を付加するという順序で表現を用いることが多い。一方、日本語では「感謝の気持ちの表明」を他の表現と組み合わせて用いることは観察されるが、それほど多くはない。日本語ではタイ語のように表現の組み合わせや順序などの特徴がなく、「感謝の気持ちの表明」を単独で用いるか、様々な表現と組み合わせて用いる。従って、「感謝の気持ちの表明」を先に述べ、他の **PP** 表現を組み合わせる述べるのが感謝場面におけるタイ語の特徴の一つだといえる。

6. おわりに

本稿では、テレビドラマの資料を用い、ポライトネス理論の枠組みで感謝場面における両言語で好まれる表現を特徴づけた。その結果として、両言語を通じて「負担度高」で「親同等」の場合、**PP** 表現が最も多かった。しかし、「負担度高」で「親目上」になると、上下関係の影響が強まり、日本語では **NP** 表現が増え、**PP** 表現が減少する傾向にある。一方、タイ語では、「親目上」の場合においても、変わらず **PP** 表現を用いるが、典型的な **PP** 表現である「相手へのプラス評価」のみ減少する傾向にある。

それぞれの言語が好まれる表現を全体的にみると、両言語の配慮される相手のフェイスが異なるため、言語によって好まれる表現が異なることが明らかになった。日本語では、主に相手の **NF** に

配慮し、「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」や「利益の内容の言及」等の NP 表現が好まれる。PP 表現も用いられるが、「ものに対する言及」や「理由を述べる」のような相手のことや事柄に直接触れないようにする PP 表現が好まれる。一方、タイ語では、主に相手の PF に配慮し、そのフェイスを満たすために、全体的に PP 表現が多く、特に「相手へのプラス評価」や「相手の行為の言及」のような相手のことや事柄に直接触れようとする PP 表現が好まれる。

上述のとおりそれぞれの言語で好まれる表現は現れ方が異なり、表3のようにまとめられる。

表3 出現状況による日タイ語で好まれる表現

出現状況	日本語		タイ語	
	NP表現	PP表現	NP表現	PP表現
「負担度高」・ 「親目上」	<ul style="list-style-type: none"> 「恐縮や申し訳ない気持ちの表明」 			<ul style="list-style-type: none"> 「ものに対する言及」 「相手の行為の言及」
「負担度高」・ 「親同等」	<ul style="list-style-type: none"> 「利益の内容の言及」 	<ul style="list-style-type: none"> 「ものに対する言及」 「理由を述べる」 		<ul style="list-style-type: none"> 「ものに対する言及」 「相手へのプラス評価」 「相手の行為の言及」

これまでポライトネス理論の枠組みで依頼、勧誘、謝罪等の様々な言語行動を考察したものは見られるが、感謝の言語行動に関わるものはほとんどない。従って、本稿はポライトネス理論を用いる研究の新たな領域を見出したものだといえよう。ポライトネスの観点から日本語は NP の文化だと指摘した研究が多いが、本稿の感謝の言語行動の結果からは、NP 表現のみならず、PP 表現も用いられることが明らかになった。また、タイ語に関してはどのポライトネスが好まれるか明確な記述はこれまでほとんどない。しかし、本稿の結果より、感謝場面におけるタイ語の表現の特徴として PP 表現が好まれることが明らかになった。本稿はポライトネス理論を用いた研究を、感謝場面における両言語の言語行動の対照研究という新たな領域にも広げた。本研究の成果は将来的にポライトネス理論を用いる感謝の言語行動の更なる対照研究や、他の言語行動等の研究にも貢献することが期待される。

本稿では上下関係及び相手にとっての負担度により両言語の表現の使い分けを考察した。しかし、ポライトネス理論では、親疎関係も表現の使い分けに影響を与えるとされている。今後は親疎関係も分析要因として取り上げ、両言語の表現の使い分けについて検討することを課題としたい。また、本稿では表現の組み合わせと順序も両言語の表現の特徴として指摘した。しかし、本稿では表現の使い分けに焦点を当てて考察を行ったため、組み合わせと順序に関して詳細に考察しなかった。依頼や謝罪などの他の言語行動においても日本語とタイ語の表現の組み合わせと順序の特徴が見られると指摘する研究も少なくない。従って、感謝場面においても表現の順序に関して検討することが必要であると考えている。

* 本稿の内容は、2016年9月4日に京都外国語大学で行われた社会言語科学会第38回大会において発表した原稿に加筆訂正を加えたものである。大会でコメントをくださった方々に感謝いたします。

注

- 1 本稿で用いられたテレビドラマは以下のとおりである。【() 内は本稿での略称を示す】
 - <日本語>
 - ・幸せになろうよ：2011年、Episode 1-10、1回約45分放送 (SY)
 - ・私が恋愛できない理由：2011年、Episode 1-10、1回約50分放送 (RY)
 - ・Rich Man Poor Woman：2012年、Episode 1-11、1回約45分放送 (RW)
 - ・結婚しない：2012年、Episode 1-11、1回約50分放送 (KS)
 - ・Summer Nude：2013年、Episode 1-10、1回約60分放送 (SN)
 - ・Last Cinderella：2013年、Episode 1-11、1回約50分放送 (LC)
 - <タイ語>
 - ・Sên-taay slǎy sòot：2011年、Episode 1-20、1回 約1時間半放送 (SS)
 - ・Kon rák luaŋ cay：2011年、Episode 1-16、1回 約1時間半放送 (KC)
 - ・Sǎam nùm núa thooŋ：2011年、Episode 1-15、1回 約1時間半放送 (ST)
 - ・Pan-yaa-chon kôn khrua：2012年、Episode 1-12、1回 約1時間45分放送 (PK)
 - ・Reeŋ pràat-tha-nǎa：2013年、Episode 1-14、1回 約1時間45分放送 (RP)
- 2 本稿では、相手が親しい目上とは、母や父のような家族の人を意味する。また、指導教員、上司、先輩等、発話者より社会的な位置が高く、日常生活でよく話し合っている人物も「親目上」として扱っている。一方、相手が親しい同等とは、恋人、夫婦、友人のような人物を意味する。
- 3 本稿では、感謝場面を、相手にとって負担が高いと思われる場面と相手にとって負担が低いと思われる場面に分け、分析を行った。「負担度高」を「相手は、利益を受けた側のために、時間、お金、労力等を費やした場面」や「相手は利益を受けた側のために、何らかのことを申し出て、その事柄は時間、お金、労力を費やすと予測されている場面」、「負担度低」を「相手は利益を受けた側のために、特に時間、お金、労力を費やしていない場面や好意を表したことを言った場面」と定義する。この定義に従い、感謝場面を扱った。
- 4 詳細な分類：赤堀（1995：53-54）、E & B（1986：180-183）

参考文献

- 赤堀由紀子（1995）「日本語母語話者の感謝表現—ストラテジーの種類とその使い分けを中心に—」『待兼山論叢』（29）大阪大学大学院文学研究科，49-65
- ウィッタヤーパンヤーノン、スニサー（2004）「日・タイの『謝罪』の発話行為から見た両国の違い」『三田國文』（40）慶應義塾大学国文学研究室，31-43
- ウィッタヤーパンヤーノン、スニサー（2006）「日本人とタイ人の『依頼』、『勧誘』行為について—対人関係を維持するストラテジーを中心に—」『三田國文』（43）慶應義塾大学国文学研究室，15-34
- カウイーチャールモンコン、サリンラット（2014）「感謝場面における日タイ語の言語行動」タイ国日本研究国際シンポジウム2014論文報告書編集委員会編『タイ国日本研究国際シンポジウム2014論文報告書』チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座，224-238
- 川村陽子（1998）「対人コミュニケーションにおけるポライトネスの諸相」『人間と環境—人間環境学研究所研究報告』2,27-35

- 熊谷智子 (2013) 「日本語の『謝罪』をめぐるフェイスワーク—言語行動の対照研究から—」『東京女子大学比較文化研究所紀要』74, 21-36
- 熊取哲夫 (1990) 「日本語の『感謝』における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』(52) 表現学会, 36-44
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」水谷修編『日本語の表現3話し言葉の表現』筑摩書房, 54-66
- サンタヨーパス、スイリラット (2011) 「感謝の場面での謝罪の発話：日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け」『一橋大学国際教育センター紀要』(2) 一橋大学大学院言語社会研究科, 37-55
- 清水崇文 (2009) 『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
- 清ルミ (2007) 『優しい日本語：英語にできない「おかげさま」のこころ』太陽出版
- 三宅和子 (1994) 「『感謝』と『詫び』における発話者の視点—付加表現の使われ方：日英比較—」『日本語教育方法研究会誌』1 (2), 20-21
- 李, 佳盈 (2004) 「電子メールにおける依頼行動—依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対照研究—」『言語文化と日本語教育』(28) お茶の水女子大学日本語文化学研究会, 99-102
- Brown, P & Levinson, S. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Use*. Cambridge: Cambridge University Press. 田中典子 (監訳), 齊藤早智子, 津留崎毅, 鶴田庸子, 日野寿憲, 山下早代子 (訳) (2011) 『ポライトネス：言語使用における、ある普遍現象』研究社
- Coulmas, F. (1981) Poison to your soul. In Coulmas, F. (Ed.) , *Conversational Routine*. The Hauge: Mouton, 69-91
- Dechvijankit, A. (2004) *A Contrastive Study of Request Strategies in Japanese and Thai*. Chulalongkorn University M.A. Thesis
- Eisenstein, M. & Bodman, J. (1986) 'I Very Appreciate': Expressions of gratitude by native and non-native speakers of American English. *Applied Linguistics*. 7 (2), 167-185
- Jongkolsiri, W. (2003) *A Contrastive Study of Invitation Strategies in Japanese and Thai*. Chulalongkorn University M.A. Thesis
- Matsumoto, Y. (1988) Reexamination of the Universality of Face: Politeness Phenomena in Japanese. *Journal of Pragmatics*. 12, 403-426
- Ohashi, J. (2008) Linguistic rituals for thanking in Japanese: Balancing obligations. *Journal of Pragmatics*. 40, 2150-2174

